

職員派遣を活用した「配慮が必要な子どもを含めたインクルーシブ保育・教育の啓発」について（愛媛県松山市の場合）

松山市の取組

保育所だけでなく、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業、認可外保育施設（企業主導型保育事業含む）も含め、**市内すべての施設を対象**に、配慮を必要とする子どもへの理解を深め、実践する保育士等のサポートとなるよう、**これまでも巡回支援や発達支援実践研修会を開催**し、市内のインクルーシブ保育・教育の啓発を実施。

職員派遣によるサポート内容

1. 保育所に、秩父学園職員（児童指導員）が訪問して、園児の様子や保育の様子を観察し、園児についての見立てや助言を実施。
2. 市内の保育教諭、幼稚園教諭、保育士を対象に、『配慮が必要な子どもを含めたインクルーシブ保育・教育について』をテーマに、秩父学園職員が講師となり、クラス保育・教育を行う上で配慮すべきこと、関わり方等について、訪問先での様子も踏まえつつ、講義形式の研修を実施。

【職員派遣のスケジュール】

- 6月6日 松山市から職員派遣の申込
「どのような困り事があるのか」「どのような支援を希望されているのか」などの希望や要望を確認後、具体的な支援内容を松山市と調整。
- 11月21日 松山市内のA保育所を訪問
午前：対象児童2名と、その支援状況や保育環境を観察
午後：各児童の見立て、今後の支援の提案、助言等（A保育所以外の保育士等も参加）
- 11月22日 前日の訪問での様子も踏まえつつ、
「配慮が必要な子どもを含めたインクルーシブ保育・教育について」をテーマに
秩父学園職員による講義（参加者：57人）
（※参加者の内訳：認定こども園13名、幼稚園4名、保育所27名、地域型7名、認可外5名、その他1名）
- 2月 オンラインによるフォローアップを実施予定



↑研修会の様子



派遣先の希望に応じた事例や内容で、研修会の資料を構成

お友達の乱暴な言動

原因
・言葉が不足・すぐに出ていない
・相手の気持ちが理解できない
・上手に関わりたのに上手く関られない
・ルールは理解できているが、衝動的に手が出てしまう。

方法
・良い言動・良くない言動を明確にする（理解）
・一つ一つの言動に対して、先生と一緒に練習する
・全員の指示の後に個別に指示を出す
・良い言動に注目し、良い評価を伝える回数を増やす

【研修会参加者アンケートより】

- 配慮が必要な子どもに対して、様々な体制を整えていく上で、いろいろなことがわかっているつもりだったが、改めて考えるいい機会となった。
- 写真やイラスト等でお勧めの教材や環境配慮を具体的に教えていただき、参考になった。早速取り入れたい。
- 具体的な支援方法やグッズは小学校に進学する前に保護者にも伝えていきたい。